

## 児玉果亭作 王日神社・幕絵 2 枚について

中野市の王日神社に伝わる2枚の幕絵(縦2.4×横7.5m)は、これまで伝果亭とされ、謎を秘めた社宝として現地で長らく保管されてきた。水野美術館高田学芸員による2018年11月から2020年2月までの調査研究により、果亭作であることが明らかになった。

所在地: 中野市諏訪町4-20

所有者: 王日神社

作者: 児玉果亭

講演会: 中野市中央公民館 2020年2月23日

- 落款は紙印であり、山ノ内町教育委員会が保管していた。字(あざな)の調査の結果、児玉果亭の真筆であることが新たにわかった。
- 明治2年の作であることと、王日神社17代宮司伝田丈親との関係も明らかになった。なぜ、この時期に王日神社との関係で制作されたのかについては、今後の研究課題である。
- 講演の最後に、この2枚の幕絵は中野市の宝であり、後世に残していきたいとの提言があった。
- 参加者は80人以上であり、文化財関係の講演会としては最近の10年間では最多であると思われた。参加者の講演を熱心に聞き入る様子からも、幕絵に対する市民の関心の高さが感じられた。

経緯: 2018年8月28日 王日神社氏子総代長丸山 富雄氏から幕絵の修理や保存について問い合わせ  
 2018年9月4日 中野市立博物館綿貫学芸員(美術担当)と東町公民館で幕絵を確認  
 綿貫学芸員退職のため水野美術館高田学芸員に相談  
 2018年10月～ 高田学芸員調査開始  
 2019年3月24日 中野市立博物館で高田学芸員講演  
 2020年2月23日 中野市中央公民館で幕絵を展示し高田学芸員が絵解き形式で講演  
 2020年3月3日 東町区から文化財指定についての相談



幕絵「舌切り雀」



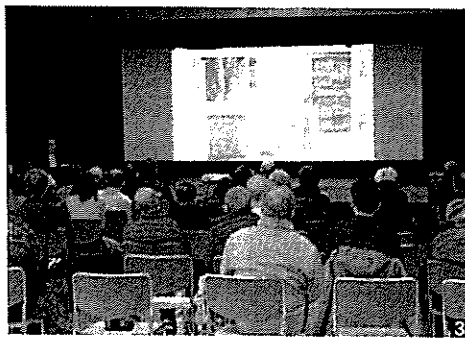
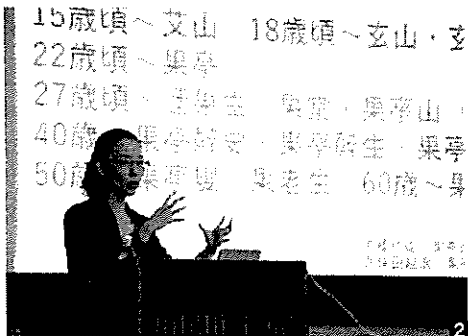
幕絵「鼠大根」



\* 児玉果亭(こだま・かてい)  
 1841(天保12)年～1913(大正2)年。  
 松代藩領沓野村渋湯組(現山ノ内町渋湯温泉)生まれ。20歳頃より佐久間雲窓に入門、南蘋派の画法を学ぶ。1875年京都に出て田能村直入に師事、南画を習得し、80年帰郷。86年第2回内国絵画共進会に出品し好評を博す。以後郷里で制作を続ける傍ら、多くの門人を指導した。

注目のできごとを写真でレポート

# まちかど トピックス



❶ 実際に幕絵を見た参加者は驚きの声を上げ、解説に聞き入っていました。  
❷❸ 聴講に集まった約80人が、熱のこもった講演に耳を傾けました。

2/23

絵解きで知る中野  
伝 児玉果亭作  
王日神社・幕絵を囲んで

実物の幕絵を見ると、和紙に描かれていることやその大きさにびっくり。郷土の偉人の作品に触れ、感動しました。

市内から参加  
青木小百合さん



中央公民館で、児玉果亭の作品と伝わる王日神社の2枚の幕絵「舌切り雀」と「風大根」を読み解く文化教養講演会を開催しました。  
講師の高田紫帆さん（水野美術館）は、落款や絵柄、歴史などから絵を読み解き、幕絵が果亭の作品に間違いないことや制作された年が1869（明治2）年と判明したことなどを講演。訪れた聴講者に「地域の素晴らしい宝を次の世代に伝えてほしい」と語りました。